

まちづくり提言の公表（令和3年10月受付分）

※回答内容は、回答した当時の内容を掲載しています。

件名	ご意見の内容(一部を要約しています。)	回答内容(一部を要約しています。)	担当課
鹿野地区の路線バスについて	鹿野地区の路線バスの停留所が地区唯一のスーパーから遠いため、足の不自由な高齢者にはとても不便です。スーパー前で乗り降りできるようにバス会社に働きかけてください。	ご要望いただきました内容につきましては、路線バスを運行する交通事業者にお伝えし、交通事業者からは路線バスをご利用いただいている鹿野地域の皆さまの利便性が図れるよう、必要に応じて運行内容を検討してまいりたいとの回答でございました。また、鹿野地区内の移動手段として、市では「乗り合いタクシー」を運行しています。地域毎に曜日と時間帯は異なりますが、自宅から町なかの目的地の往復にご利用いただけますので、ご要望のスーパーの近くでの乗降も可能となっています。運行日は、月曜日から土曜日に運行し、日曜日と祝日、年末年始の12月31日から翌年の1月3日までが運休日となっています。ご利用の際は、事前予約が必要ですので、利用日の前日午前7時から午後5時まで、または当日の午前7時から午前8時までに運行事業者にご連絡いただくようになります。料金は1回(片道)300円で、どなたでも利用できます。	公共交通対策課
押印を求める手続き、求めない手続きについて	押印を求める(求めない)手続きの一覧について、すべての書類(申請書、届出書、委任状等)について可否を記載してください。上下水道局や農業委員会についても同様です。担当職員に聞いても可否の判断ができないときがあります。申請した後に押印がいりますと言われることが多々あります。お手数でしょうが今のうちに決定しておけば問い合わせ時に職員が右往左往することもなくなると思いますのでよろしくお願ひします。	本市では、令和2年度において、市民の利便性向上と事務効率の向上を図り、行政手続のデジタル化の前提となる押印の義務付けを廃止するため、押印の種類や手続の内容・目的・趣旨等をふまえて、行政手続における押印等の見直しとデジタル化に向けた取組方針を決定し、見直しを実施いたしました。上下水道局等の公営企業、農業委員会等の行政委員会を除く押印を求める手続・求めない手続のそれぞれの一覧表は「財政課」ウェブページに掲載しておりますが、公営企業、行政委員会の手続においても同様のものを作成した上で、市民の皆様が目につきやすい「申請・届出書ダウンロード」のウェブページからも確認できるよう改善してまいります。さらに、この度いただきましたご意見により、庁内で徹底できていない状況を認識いたしました。再度、全所属に対し、徹底を図ってまいります。	財政課
インターネット通信網整備による鹿野地域の活性化について	昨年、総務省により5G回線の共同設置事業推進の政策案が発表され、全国の過疎地域における通信網整備事業を進める指針が出されました。現在、鹿野地域ではCATVによるインターネット、NTT西日本のADSLもしくは、携帯キャリア回線(4G)と、まだまだ都市部に比べると速度もサーバー許容量も十分とは言えません。このことは、鹿野地域の主要な産業である農林業において、スマート農林業の推進を阻むもので、高齢化が著しく進んでいる業種にとって由々しきことです。また、無線LANのアクセスポイントを地域内に点在する公共施設や観光拠点等に設置することで、観光客が気軽に地域情報を検索し快適に散策できる環境が整備されることから観光振興を図るうえでも、大変重要だと考えます。是非とも、市長より鹿野地域への5G整備について関係機関、通信事業者へ働きかけをお願いいたします。	これまで本市では、鹿野地域においてCATV事業者による鹿野地域への光回線の整備を支援してきたところですが、地理的な条件から、他の地域と比べ、インターネットサービスの選択肢が多くない点は認識しています。その中で、携帯電話回線(4Gと呼ばれるLTE回線)の整備については、市内の通信圏外地域の調査と要望を毎年度行い、鹿野地域も含め少しずつではありますが圏外の解消が進んでいます。4G、衛星回線、LPWAなどの既存の通信技術に加え、通信事業者による5G整備が進むことは、農林業のスマート化を図るうえで選択肢が広がることにつながります。また、観光分野においても、気軽にインターネットを使えることが利便性や満足度の向上につながります。Wi-Fiの整備については、その技術の長所・短所などを考慮しつつ、サイバー犯罪等のリスクやセキュリティ対策、費用負担などの課題を踏まえた検討を進めていくことが大切です。さらに、5Gにつきましては、通信事業者による整備が大都市圏から地方に広がりつつあり、市内でもようやく一部の事業者による整備が始まったところですが、今後、さらにサービスエリアの面的整備が進むと思われませんが、それに合わせて、必要に応じて、国や山口県を通じた事業者へのエリア整備の要望を検討したいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。	情報企画課
学校の黒板について	学校の黒板についてなのですが、今はデジタル黒板がサブでチョークを使用するものがメインです。もうチョークを使用する黒板は失くしてもいいのではないのでしょうか。デジタル黒板をアップデートして、そちらをメインにしたなら画像も動画も自由に使えます。尚且つチョークで手を汚すこともなく、粉を出すこともなく、消すのも楽。費用はかかるでしょうが存在する技術を積極的に取り入れていく姿勢は大切ではないのでしょうか。それもどこよりも早く導入したなら話題にもなるでしょうし。ご検討いただけますと幸いです。	本市におきましては、本年度より全ての児童生徒に1人1台のタブレット端末を整備するとともに、各教室に大型ディスプレイを整備し、日々の授業において活用を進めているところです。ご意見をいただいた黒板に代えて大型ディスプレイをメインに活用することですが、現在、各学校において、児童生徒の学習への関心を高めたり、授業中に学習したことを深めたりするために、様々な資料や画像などをタブレットや大型ディスプレイに提示するなどして活用しています。一方、黒板には、児童生徒が学習の見通しを立てるための、学習のめあてを書いたり、学習の中で児童生徒が気付いたことや課題に対する答えを導き出すまでの過程を書いたりしています。大型ディスプレイは、画像などを大きくきれいに提示することはできますが、授業が終わるまで、同じ画面を残したままにすることができないというデメリットがあります。児童生徒が学習を進めていく中で、常にめあてや課題を意識しながら、意見を考えたり、答えを求めたりしていくためには、黒板は欠かせないものであると考えております。また、児童生徒は、教員や児童生徒が黒板に書いたものを自分のノートに書き写しながら、その時間に学習した内容についての理解を深めていくものでもあります。これらのことから、タブレット型端末や大型ディスプレイと黒板の双方のメリットを生かしながら、児童生徒の学力を高めていきたいと考えております。	学校教育課

まちづくり提言の公表（令和3年10月受付分）

※回答内容は、回答した当時の内容を掲載しています。

件名	ご意見の内容(一部を要約しています。)	回答内容(一部を要約しています。)	担当課
フリーペーパー shu・wa-shu・waについて	<p>ゆるくハジける周南の輪、微炭素系フリーペーパー、shu・wa-shu・wa創刊等素敵なキーワードで満ち溢れています。また、紙面にQRコードを掲載することで情報量のキャパシティを広げる等工夫も凝らされています。shu・wa-shu・waは気が利いて我々市民の心に響きまた覚えやすいですね。このように若い人の力は素晴らしいです。これぞプロモーション担当課のあるべき姿ではないでしょうか。ところでshu・wa-shu・waと「ここから、ここつながる。周南市」の関係はどう位置づけられるのでしょうか。どちらを売り出していくのでしょうか。またSHUラボ(周南に人を集めるラボ)の位置づけを教えてください。shu・wa-shu・wa創刊に関する記事にプロモーション関係の「ゆるくハジける周南の輪、微炭素系フリーペーパー、エモいえんとつ特集」等素敵なキーワードが多く書かれています。周南市の掲げるシティプロモーション事業の目標「関係人口100万人の応援団作り」に向けての「ここから、ここつながる。周南市」と言う屋台骨とも呼べるキャッチコピーとこれらキーワードの関係がよくわかりません。市民にわかりやすくするような相関図でも作成していただくことを希望します。1年経って、関係人口はどのくらいになったとみていますか。ここで言うフリーペーパーとは何なのかについてもご教授ください。発行時期がフリーなのか、内容もフリーと言うことか。市広報との違いも教えてください。</p>	<p>○【「ここから、ここつながる。周南市」と「Shu・wa-Shu・wa」の関係性について】 「ここから、ここつながる。周南市」は、周南市関係人口100万人ネットワークづくり、周南市のファンづくりを推進していくためのキャッチコピーで、フリーペーパー「Shu・wa-Shu・wa」については、周南市のファンづくりのための手段としてフリーペーパーを発行して、読者とここつながり、周南の輪を広げて行きたいと名付けたタイトルです。「ここから、ここつながる。周南市」はビジョン、周南市関係人口100万人ネットワーク構築は目的、フリーペーパー「Shu・wa-Shu・wa」の発行(周南の情報を届け、輪を広げる)は目的を達成するための手段となります。</p> <p>○【SHUラボについて】 SHUラボは、昨年度のワーキングチームから派生した市民と市職員が一緒になってシティプロモーションについて考え実行していくクリエイティブグループです。フリーペーパー「Shu・wa-Shu・wa」の発行についても、「SHUラボ」で生まれたアイデアです。</p> <p>○【関係人口をどれくらいに見ているのか】 本市が進めるシティプロモーションにおいて、関係人口とは、市出身者をはじめ、在勤・在学歴・居住歴を持つ人のほか、本市に親戚や友人がいる人やルーツがある人、また、ふるさと納税をしたことがある人など、本市と何らかの関り、縁があり、思いのある人たちとらえています。関係人口を数値化するのは、難しいのですが、数値化するとすれば、シティプロモーションの数値目標の一つとして、市のSNS等のフォロワー数を指標にしています。その数値は、令和3年3月末で、11万3,020人です。</p> <p>○【フリーペーパーとは何か】 フリーペーパーとは、無料で手に取っていただける情報紙です。地域に密着した情報や、生活に絡んだ情報が掲載されている紙媒体の広告物であると日本生活情報紙協会によって定義が設けられています。</p> <p>○【フリーペーパーと市広報との違いは】 市からのお知らせを広く市民の方へ伝えるため、自治会を通じて全戸に配布する市広報とは違い、フリーペーパー「Shu・wa-Shu・wa」は、シティプロモーションの情報紙として、市内の魅力に特化した情報をお届けすることとしています。配布については、市内の店舗や飲食店、公共施設との関係を深めるためにも、市民編集メンバーと市職員とで、約60ヶ所を回り、設置の協力をお願いし、配布をしていただいています。</p>	シティプロモーション課